

# 議会 だより

No. 157

長野県 原村

令和6年度一般会計予算 2

中学生議会 14

3月定例会 審議から 6

一般質問 8




# 響け、 僕らの音。

— 原中学校にて（インタビューは16ページ）

原村議会の情報は  
ホームページからも  
ご覧いただけます



 マチイロ

マチイロアプリからも  
ご覧いただけます



# 未来を拓く

## 令和6年度 一般会計予算

# 46億1,600万円

第1回定例会は、令和6年2月22日から3月19日まで7日間の日程で開催された。議会開催の村長挨拶では、「未来を拓き幸福度日本一」の予算編成としたこと、住みやすくすべての住民が明るい未来を築くことができるよう村づくりを行っていく施策であるとした。今号では、注目する予算と審議、議会提言が予算に反映された内容について紹介する。

はじめに、一般会計予算歳入について、村税は、昨年度決算に基づいた予算編成を行った結果、個人村民税、法人村民税、家屋の新築による固定資産税増を見込み、昨年度比15・4%増の8億8,260万円、地方交付税は、昨年度比11%増の18億4,930万円とした。

歳出は、総合計画にある5つの目標に基づいて編成され、公共交通待合所の整備、原山地区への防災倉庫建設による安心安全な環境づくりを進める。令和6年度は、令和3年度から準備を進めてきた重層的支援体制整備事業が始まり、住民と社会が繋がる仕組みづくり、学童クラブの増設と子ども・子育て支援センター「はらっぱ」に配置する集落支援員の企画提案を運営に生かす。農業振興では、セルリーの疫病対策や収入保険の事務費分の補助などを予算化した。また、令和7年、原村政150年を迎えるにあたり、村全体で祝う記念事業を行う。

議会費は、政務活動費と職員1名増の人員費で、568万円の増加とした。

定例会最終日には、令和6年度一般会計予算と原村国民健康保険税条例の一部改正に附帯決議を付し、村長提出議案28件、委員会提出議案3件を可決、諮問2件を適任、陳情2件を採択及び趣旨採択とした。

# 中央高原防災倉庫建設設計

397万円

保健休養地への人口増に対応し、新たにもみの湯向かい側に防災倉庫を建設する建設設計業務。縦の木荘ともみの湯は指定避難所でもあり、有事の際に既存の防災倉庫から荷物を運ぶよりは効率が良い。周辺住民に対する拠点のひとつとする。敷地面積908平方メートル、令和6年度に設計を行い令和7年度完成予定。

2019年の台風19号では区の発電機も使用しましたが、冷凍庫はできるだけ開けずにしのぎました。現在は、何かあった時の為になるべく空間が無いよう物を詰めておくなど工夫しています。防災倉庫の場所は交通の便もいいしヘリコプターも降りることができ、歩いて行かれる距離なので安心感があります。



大崎 光さん（ペンション）



建設予定場所

**Q** どのような防災倉庫か。

**A** 昔の薪置き場のあった場所へ駐車場も含めて整備する。敷地面積908平方メートル、令和5年建設した既存の防災倉庫の2/3位の大きさを想定する。用途は、避難所設営の為の備品・備蓄品の保管、支援物資の受け入れなどを想定している。

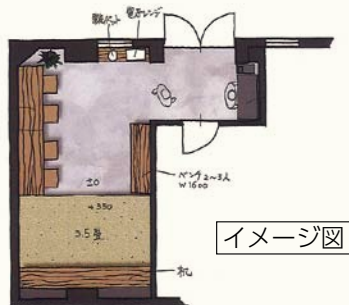
未来  
を  
拓く

## 安心・安全な環境づくり

### 公共交通待合所整備

390万円

役場庁舎地下1階にある空き部屋・物置部屋の一部を改装して公共交通の待合所を新設する。子どもから高齢者までがバスや親の迎えを快適に待てる場とし、この場所が鉄道駅のない原村の「駅」となることを目指す。空調・電子レンジ・デスク・自販機・ポット・畳部屋など設置し、開所時間は午前6時から午後8時までとする予定。



イメージ図

**Q** 待合所のセキュリティ対策は。

**A** 庁内側には入れないよう、庁務員が施錠・管理する。

### 八ヶ岳自然文化園

### Wi-Fi設置

904万円

八ヶ岳自然文化園は観光客が集まる観光施設であり、指定緊急避難場所である。園内には携帯電話が繋がりにくい場所があることから避難所、避難場所の通信環境整備を目的に設置する。設置工事に116万円、機械器具購入に788万円を見込み、八ヶ岳自然文化園、屋内外エリアの通信環境をカバーする。



# 学童クラブ運営

1,903万円

令和6年度からの「原っ子広場」終了に伴い、学童クラブ入所希望者の増加が予想されるため、学童クラブの定員が、登校日・休業日ともに70人から95人に拡大され、指導員も増員となる。増設場所は小学校体育館南側の「学習室」を利用する。

## 視点

待機児童もなく安心して利用できることは働く親にとってありがたい。引き続き保育環境の整備が望まれる。休業日学童の開所時間の繰り上げは、これまでも住民からの要望が聞かれており、村外への通勤が多い実態を踏まえても、その実現が望まれる。また、原っ子広場の終了により、学童クラブ利用以外の児童の放課後の居場所についても、引き続き望ましいあり方を考えていかなければならない。

## 学童クラブ利用者の声

### 〈保護者の声〉

- 先生たちを信頼しているので安心して働ける。
- 外遊びにも先生が付いていてくれるので安心。
- 祖父母も働いていて頼れないので、休業日学童の開始時間がもう少し早いと助かる。

### 〈児童の声〉

- 先生たちが優しい。
- 他の学年の子と遊べるのが楽しい。
- ごろごろできたり、工作やパズルをしたりして楽しい。
- おもちゃも多いし、サンタさんも来てくれて嬉しい！

未来  
を  
拓く

# 子どもたちの笑顔と未来へ

## 子ども・子育て支援センター活用

444万円

子ども・子育て支援センター「はらっば」の運営や、地域で子育て支援を行う団体や人材の発掘・育成、住民との協働による子ども・子育て支援の推進等を目的に、集落支援員1名が配置される。

### 集落支援員とは

地域の実情に詳しい人材で、集落対策の推進に関してノウハウ・知見を有した人材が村から委嘱され、村の職員と連携しながら地域の課題に対応していく。国から1人あたり350万円の財源手当がある。

- Q** 集落支援員は子ども・子育て支援のみが任務なのか。
- A** 子ども・子育て支援に特化する。他に商工観光課でも移住・空き家対策での集落支援員を導入する。
- Q** 集落支援員の拠点が「はらっば」で地域住民と関われるのか。
- A** 「はらっば」はあくまで拠点であり、地域に出向いて活動してもらう。



## 重層的支援体制整備

599万円

これまでの、子ども・障がい者・高齢者・生活困窮者といった対象ごとの福祉政策では対応できなかった様々なニーズに応えるための体制をつくる。行政の縦割りで支援できなかった部分を横の連携により包括的に支援する。これまでの支援サービス等に変更は生じない。

事業主体は村で、主な委託先は原村社会福祉協議会。

### 視点

家庭が抱える問題が多様化・複雑化する中、支援の輪が広がり、生きづらさや困難さを抱える住民の支援につながることを期待したい。コロナ禍により縮小した人と人、人と地域のつながりも強まることを願う。

## 原村150周年記念事業

364万円

明治8年に8つの新田村が合併し原村が誕生した。以後、平成の大合併にも合併することなく独自の村政を施行し今日に至った。2025年(令和7年)に村政施行150年を迎えるにあたり住民が皆でお祝いする機会とすべく、以下の事業を行う。

■記念式典 316万円  
記念講演会、DVDの上映、パンフレット作成等式典に関わる費用。

■人文字航空写真撮影 7万円  
小学校グラウンドにて小中学生による航空写真を撮影する。

■タイムカプセル 15万円  
村政施行150周年の資料を後世に残す。また児童生徒が50年後に向けたメッセージで令和の時代を伝える。

■ラッピングポスト 26万円  
村内2か所のポストに村のイメージをデザインしてラッピング、住民や観光客にPRする。

### 未来を拓く

## 村のチカラを更に活かす

### セルリー疫病対策推進

250万円

村の特産品であるセルリーの生産振興を図るため、疫病対策に要する経費の一部を補助し、セルリー栽培農家の負担軽減を図る。対象資材はセルリー疫病対策として施用する亜リン酸肥料で、補助率は購入費の25%以内。

Q 亜リン酸肥料の効果は。

A 殺菌作用はないが、根張りを良くしてセルリーの株を強くする。

Q 事業期間は。

A 令和6年度 単年の補助事業。

Q 亜リン酸肥料は価格が高いが、補助はどの程度か。

A 村とJA合わせて最大50%の補助を行う。

疫病は育苗段階で発生すると聞いており、疫病菌をハウス内へ持ち込まないようにして、亜リン酸肥料を使い育苗管理をしています。今後も、土づくり・畑の排水対策をさらに進めたいと思います。

伊藤 幸徳さん(中新田)



### 視点

令和7年度には疫病「ファイトフトラ属菌」に有効な登録農薬が使用できる見込みにより、6年度は亜リン酸肥料を使用した対策を進める。また県の調査で病気の元が育苗段階で発生することが分かってきたので、農家に指導していくとしている。予防効果など、今後の動向を注視したい。



## 賛否が分かれた議案等

○ 賛成、× 反対、△ 趣旨採択又は一部採択に賛成、  
▽ 退席、－ 欠席、議長は可否同数時のみ裁決する。

		審議結果	芳澤清人	半田裕	平出敏廣	森山岩光	村田俊広	小松志穂	宮坂早苗	百瀬嘉徳	佐宗利江	中村浩平
《村長提出》												
議案第10号	原村国民健康保険税条例の一部を改正する条例 (動議 附帯決議案)	可決	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×
	議案第10号 原村国民健康保険税条例の一部を改正する条例に対する附帯決議 (内容) 県が目指す保険料率統一に向けて被保険者の負担が過大なものとならないよう、国民健康保険事業基金の活用を検討すること。 提出者 議員 村田俊広	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第15号	原村道路線の廃止及び認定	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
議案第19号	令和6年度原村一般会計予算	可決	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○
《請願・陳情》												
陳情第2号	八ヶ岳中央農業実践大学校(大学校)周辺地域の景観、環境、歴史、文化を次世代に繋ぐ施策推進の陳情 提出者 八ヶ岳の美しい環境を継承する会会長 滝田栄	趣旨採択	△	△	○	△	○	○	○	△	△	△
	(動議 趣旨採択案) (趣旨説明) 茅野・原にまたがるこの法人の敷地は、村有地ではないので、直接的に村が何かすることは出来ない。しかしこの場所の景観等は住民の心の拠り所となっているため、願意をくみ取り趣旨採択とすることが最も適切と考える。提出者 議員 中村浩平 (採決) 反対討論はなかった。趣旨採択賛成者の起立を求め、採決を行った。											

## 八ヶ岳中央農業実践大学校及び周辺地域の景観、環境、歴史、文化を次世代に繋ぐ施策推進の陳情

大学校及び周辺地域の自然景観、環境の保全をすること。近隣自治体及び地元住民と協力して協会への働きかけ、必要な施策を推進する組織機関の設置について検討するよう求めるもの。

**Q** 必要な推進組織とは。

**A** 住民と行政が一体となり、周辺域をどうするか、どういう影響が出てくるか、対策会議や話し合いをする場を設けて欲しいということ。

### 原案賛成討論 (反対討論なし)

- ・八ヶ岳を望む美しい景観は、大学校の広大な敷地を含まずには考えられない。どうあるべきか考える時期にきている。
- ・景観や環境の保全に対し行政もでき得る努力をすべき。また農村更生協会は公益財団法人であり、一般的な法人とはその責務も異なる。
- ・「学校と村が情報を共有し、協力し合いながら農業体験や自然学習の拠点とし発展を図る」と示している。村が積極的に関わりを持つ事は当然。

### 趣旨採択 賛成討論

- ・環境への思いは完全に同意。ただ、本件は執行部にやるよう求めるのではなく、我々議会も同様に考えるべき問題ととらえ、趣旨採択に賛成。
- ・八ヶ岳周辺地域の自然景観と環境の保全を次世代に繋げて行くのは共感できるが村に求めている具体策がなく、執行部としても困る。

## 原村国民健康保険税条例の一部改正

長野県が運営主体となり、納付額が示され、税率を市町村が決める。令和9年度までに県内の保険料水準を統一し、現在の4方式(所得割・資産割・均等割・平等割)から3方式(所得割・均等割・平等割)にするための移行期間、今回は、資産割(3.0%減)等の料率を減らす。医療費の少ない市町村には、財政支援が実施される。

**Q** 改定による税収額は。

**A** 年平均990円の値上げ、全体で43万円程度の増額。

**Q** 国保の基金は。

**A** 令和4年度末で1億1,140万円程。基金の目的は、保険給付費増減に備えるもの。今後、基金からの繰入れも検討していく。

### 反対討論

- ・国保財政を考えると、住民として理解しがたい。さらに高い保険料となる。値上げしない方策をとるべき。
- ・一人当たり、年間で990円の増税になると説明があったが、住民の手元に残るお金がどんどん減っている時には決して増税してはならない。

### 賛成討論

- ・県の方針により段階的な保険料率の改定がやむを得ない状況。また今回は全世帯の負担増ではない。今後は基金の活用も検討されるべき。
- ・令和9年度県内保険料統一に向けての取組み。固定資産税に係る資産割は、二重の負担感がある。改正により、減額、増額、両方いる。

**附帯決議**

**令和6年度一般会計  
予算に対する附帯決議**

議会提言が反映されなかった2点と指定避難所等に災害時に必要となるWi-Fi環境整備について、予算執行の際、次の事項に留意すること。

- 1 子ども食堂・子どもの学習支援等を行う団体への支援について検討すること。
- 2 ファミリーサポートセンター事業の調査研究を進め、当村に適した方法の具体的な検討に入る。
- 3 総務課情報防災係が中心となり、各課横断的に各指定避難所等に災害時に必要となるWi-Fi環境整備を行うこと。
- 4 以上3点の進捗状況について、適宜委員会または議会へ説明を行うこと。

**決議**

**八ヶ岳を望む  
美しい景観を次世代に  
引き継ぐための決議**

八ヶ岳を望む美しい景観を次世代に引き継ぐために更なる景観の育成に努めることと村全体で自然資源に対する意識の醸成をすること。

長野県が行う景観の育成に必要な施策については、積極的に協力し、この八ヶ岳を含む美しい景観を次世代に引き継ぐための努力を村を挙げて推進すること。

**決議と  
附帯決議  
とは**

決議とは議会の意思を対外的に表明するために行われる議決のことで、法的拘束力を有しない。附帯決議とは可決された案件に対し、事業を執行する上での要望や留意事項を述べるために提出されるもの。

**一部事務組合予算総額・原村負担金内訳**

単位：千円

会計別		予算総額	原村負担金
<b>諏訪広域連合（6市町村）</b>			
一般会計		249,304	16,472
特別会計	救護施設八ヶ岳寮	364,264	0
	介護保険	20,585,796	126,034
	諏訪広域消防	2,538,156	149,261
	諏訪地域ふるさと振興基金事業	11,120	—
<b>諏訪南行政事務組合（原村・茅野市・富士見町・諏訪市）</b>			
一般会計		87,247	6,452
特別会計	ごみ処理事業	900,286	112,933
<b>南諏衛生施設組合（原村・富士見町）</b>			
一般会計		160,704	51,423
<b>諏訪中央病院組合（原村・茅野市・諏訪市）</b>			
病院事業		11,721,235	74,437
老人保健施設（やすらぎの丘）		434,043	231
看護専門学校		177,700	11,174
介護老人福祉施設（ふれあいの里）		486,081	—
<b>諏訪広域公立大学事務組合（6市町村）</b>			
一般会計		2,014,868	123

市町村単独では実施が難しいものや、共同で実施したほうが効率的な事業や施設運営を行う組織です。原村に関係するものは左表の5組合があります。原村議会からも各組合の議会に議員として参画し、また、村では運営に必要な費用を負担しています。

**令和6年度各事務組合予算**

# 3月 定例会

# 一般質問

一般質問とは、議員が村政全般にわたり、執行機関である村に対して、事務の執行状況及び将来への方針などについて疑問点をただし、報告、説明を求めることです。  
3月定例会では9人の議員が登壇し、村政課題への提言や質問を行いました。色付きの項目は本誌面で取り上げています。その他(黒字)項目については会議録をご覧ください。

<p><b>芳澤 清人</b> 議員 よしざわ きよと</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和6年度予算編成</li> <li>2. 能登半島地震教訓</li> <li>3. 樫の木荘施設</li> <li>4. 村道4602号線</li> </ol>	<p><b>中村 浩平</b> 議員 なかむら こうへい</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ゴミ有料化ありきで動いていないか</li> <li>2. JA中新田営業所を購入して消防団施設等に利用しては</li> <li>3. 組織は人。人事に問題あり</li> <li>4. 原小家庭は子ども達のもの</li> <li>5. なぜ公共施設の自動販売機を撤去させたのか</li> </ol>	<p><b>平出 敏廣</b> 議員 ひらいで としひろ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 防災対策についての考え</li> <li>2. 令和7年の150周年に向けて</li> </ol>	<p><b>宮坂 早苗</b> 議員 みやさか さなえ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中学校卒業後の子ども応援事業の新設を考えては</li> <li>2. 「美の基準」のルールを考え、まちづくりについて住民の意思をまとめる必要があるのでは</li> <li>3. 再生可能エネルギーの導入について、施設の改修時、新設など、タイミング良く導入する必要がある。導入に向けて、部局横断的な検討は行われたか</li> <li>4. 廃棄物減量について、分別と発生抑制など、現状に則した検討と見直しが必要では</li> </ol>	<p><b>森山 岩光</b> 議員 もりやま いわみつ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 防災減災対策</li> <li>2. 産業振興対策 (雇用者の確保)</li> <li>3. 「原村児童・生徒彫刻の森」の現状と、将来像</li> </ol>
<p><b>小松 志穂</b> 議員 こまつ しほ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小学校及び「はらっぱ」周辺道路の安全対策は</li> <li>2. 産後ケア事業の拡充と利用率向上に対する考えは</li> <li>3. 暮らしのDX推進による住民サービスの向上</li> </ol>	<p><b>半田 裕</b> 議員 はんだ ひろし</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域と共に子どもたちの健全な育成を考えた放課後の過ごし方の支援を</li> <li>2. やる気や専門性を持った村内の人材を活用できる集落支援員の導入を</li> <li>3. 住民(特に子どもたち)が自由に活用することのできる自然環境の整備を地域と共に進めるべきでは</li> <li>4. 1日でも早い防災・減災対策を</li> </ol>	<p><b>村田 俊広</b> 議員 むらた としひろ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国保税</li> <li>2. 保健休養地管理料の取扱いの変更</li> <li>3. 補聴器購入補助</li> <li>4. 有機農法の振興</li> <li>5. 財政</li> <li>6. 防災</li> </ol>	<p><b>佐宗 利江</b> 議員 さそう りえ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 登下校時の安全</li> <li>2. 図書館開館日</li> <li>3. 大雨等の災害復旧時における改修</li> <li>4. ハケ岳スポーツクラブ</li> <li>5. イベントの開催</li> </ol>	<p>一般質問は、事前に質問内容を通告することになっています。 ・質問時間は、1人につき質問答弁を含め60分以内で完了することとされています。 ・一問一答方式が採用されており、1項目につき2回まで再質問ができます。 ・一般質問は、HP・YouTubeで視聴できます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="180 1733 284 1839"> </div> <div data-bbox="175 1848 287 1904"> <p>YouTube 動画配信</p> </div> <div data-bbox="180 1926 284 2031"> </div> <div data-bbox="175 2040 287 2096"> <p>議会会議録 検索</p> </div> </div>





芳澤 清人 議員

村道改良

問 柏木区内村道が狭く危険

答 区と協議し対応したい

商工観光課長 グランドは今年度以前より草刈りができています。テニスコートは荒れている面がある、現在の指定管理者に現状復帰してもらおう。利用者の少なさがこの現状を招いているので次年度から指定管理者と協議し誘客の手立てを検討する。

問 縦の木荘テニスコートは利用客も少なく使用されていない状況、4面中2面は荒れている。グランドは凹凸があり使用が困難である。テニスコート、グランドを整備し誘客の手立てを。

問 縦の木荘の施設内に自転車サイクリング施設を開設しては。村長 宿泊客や観光客を考えると自然文化園、インバウンドを見据えると縦の木荘への設置

などが考えられるので展開を検討したい。サイクリング事業者だけでなく飲食店や農家を巻き込んだ展開が重要。村は民間主導の協議会と連携して応援したい。

問 柏木区内の村道4602号線は小早川に沿っており狭い幅員。民家の北側にあるため冬季は凍結し危険である。護岸も崩れかかっている箇所もあり最優先で改良を。  
建設水道課長 小早川は県の砂防指定の河川である。護岸の改修は建設事務所と協議して進める。村道の状況から少なくとも危険を取り除く施行はして行きたい。関係地権者から協力をいただき区と十分協議し改良に向け進めていく。

縦の木荘

問 グランド整備で誘客を

答 指定管理者と協議する

家庭ごみ

問 ごみ有料化導入とあるが

答 決まっている訳ではない

問 執行部が定めたごみ処理基本計画に「家庭系ごみの有料化の導入」と書いてあるが、一体どういう事が。有料化を決めるのは当村議会の権限であるが。

住民財務課長 有料化を防止するために、他の事業の予算を削減するような財政的な策は講じていない。

問 住民全体に関わるごみ処理は、徴収した

税金で対応するのが地方自治の本旨であるが。建設水道課長 税金の二重取りにはならないとの見解があり、慎重に事を進めたい。

校庭



中村 浩平 議員

問 原小校庭は子供達のもの

答 きちんとした形で考える

建設水道課長 国の基本的方針に、一般廃棄物処理の有料化の推進を図るべきとあるから。しかし導入が決まっている訳ではない。

問 住民生活と直接関係の無い所に予算が使われているが、有料化を防止する策をしっかりと講じてきたのか。

問 子供達から、冬も校庭を通常通り使いたいとの要望があるが、教育委員会にその声は届いているか。自然任せにするのではなく、校庭への注水を見直す時期に来ているのでは。

教育長 教育委員会に届いていないが、そういう要望があれば、しっかりと向き合っていきたい。今シーズンは58日間注水して、スケート授業が出来たのは4日のみ。校庭を有効に利用できる方法を検討しなければならない。

村民憲章

問 子どものこと村民憲章へ

答 今の段階では変更難しい

問 未来世代には、教育とスポーツ文化の振興に注力します。子どもたちが夢を持ち、その夢を追い求めることができるような、創造性を育む環境を提供し、心から応援することが私たちの責務だと感じている。誰一人取り残さない村づくりの実現に励んで参ります。と村長の挨拶の中にある村民憲章には子どものことが載っていないとの意見が聞かれる。令和7年の村政150周年を機会に見直しを。

答 は昭和51年3月に策定された原村振興計画の中で、初めて村民像として明示された。質問のとおり、子どもに関する文言というものは入っておりません。村民憲章の見直しについては検討をしましたが、50年近く住民の規範としてきていることや、各資料への掲載や役場前の村民憲章の石碑など、前記のことがあり現段階では変更は出来ないと判断している。



平出 敏廣 議員

防災対策

問 住民向け防災・減災条例を

答 条例制定に向け検討進める

問 原村防災会議条例は、防災対策上の組織を決めたものである。住民に向けた具体的な行動が入った防災・減災条例が必要と考える。

答 村長 最近の共通認識として、災害時における初期行動として、住民が自ら行動する自助、自主防災組織などの近隣住民による共助が非常に有効だと言われております。今後起こり得る災害に備え、また住民の防災意識向上のため、条例制定に向けた検討を進めたい。

子ども

問 子ども応援事業新設を

答 子育て分野に注力する

問 県は子ども医療費通院分の助成を中学校卒業まで拡大し、余裕が生じる財源を市町村の子ども施策に活用して欲しいとしている。

答 この財源を、応援が不足している中学校卒業後の子ども応援事業、中学校卒業祝金制度の新設に活用しては。

問 2つ目の応援として、県内12の市町が取り組みを進める高校通学費補助を新設しては。

答 3つ目の応援として、子どもの資格取得やスキルアップに人づくり補助金の新設を。

村長 公共交通片道運賃200円とした。負担軽減になっている。

村長 利用する方にとっては、魅力がある。慎重に考えていく。



宮坂 早苗 議員

美の基準

問 景観に美の基準を

答 意見を交わしていく

村長 県の拡大により、1000万円の財源が生じる。総合的に検討していく必要があるが、子育て・教育分野には、今後も注力して行きたいと考えるため、検討を重ねていく。

問 真鶴町「美の基準」は、敷地を丁寧に読み込む対話型協議。長期的に見れば空間的な景観だけでなく、景観を大切に作る人づくり、文化づくりにつながっていくとしている。

答 条例、総合計画などに視点を取り入れては。

村長 土地にあった景観を守るために、住民の皆さんが様々な形で貢献されている状況は参考になった。大切にしたい景観を守ることに、意見を交わしていきたい。

防災減災

問 太陽光発電設置の考え

答 先ずは区で検討を

問 能登半島地震を教訓に各自治体が、上下水道の耐震化などを見直しているが村の現状は。

生涯学習課長 設置により被災時には安定した電力供給源となり、避難所の機能が充実され、地域住民の安全・安心に繋がる。地域の皆さんと意見交換を行いながら方策を出せ

ばと考える。  
総務課長 費用対効果・地域特性など課題も多い。まず先に各區で検討を。

建設水道課長 年間約1km耐震化を進められるとして上水道があと200年、下水道が72年かかる。企業会計上、経営を圧迫しない計画で進める。

雇用確保



森山 岩光 議員

問 雇用者確保の支援策

答 県の補助金で支援

問 大手企業が大幅な賃金アップを発表しており村内中小企業、小規模事業者の雇用環境は今まで以上に深刻化する。新たな支援策の創設を。

商工観光課長 現時点で村独自の賃金アップ支援策は検討していない。国の助成金の上乗せとして、県中小企業賃上げ・生産性向上サポート補助金がある。商工会と情報共有し案内したい。

産後ケア

問 産後ケア事業の拡充を

答 村でも4月より拡充する

問 産後ケア事業の実績や傾向、課題は。

保健福祉課長 宿泊・通所型は増加傾向。相談型は1回以上の利用が62・5%。上限3回

全利用は27・1%でその半数は産後3ヵ月以内の早期利用となっている。利用率向上のための周知と継続支援の強化が課題。

保健福祉課長 村でも4月から要綱を改正し、回数券を1枚2千円から千円と使いやすくし、上限も6千円から1万2千円に拡充する。

問 村のホームページ

保健福祉課長 周知の仕方を工夫し、保健師等による伴走型支援も強化して案内していく。

安全対策



小松 志穂 議員

問 はらっぱ前の横断歩道は

答 設置へ前向きに進んでいる

問 はらっぱ前交差点への横断歩道設置に向けた村の対応と進捗は。

副村長 公安委員会で横断歩道の位置が示されたと聞いている。待避所確保のために隣地の地権者に土地の提供をお願いしており、前向きに話が進んでいる。

問 原っ子広場終了で道路横断の見守りもなくなるが、横断歩道設置までどう対応するか。

教育長 職員が顔を出すことを考えている。

村づくり

問 村づくりに集落支援員を

答 令和6年度中に導入

問 子ども子育て支援  
については、村の状況  
を把握しグラウンドデザ  
インを描いて事業を進  
める必要があると考  
える。やる気や専門性  
を持った村内の人材を  
用できる集落支援員の  
導入を。

を検討しているか。

商工観光課長 当課に  
て、地域おこし協力隊  
と連携し、移住・定住  
支援と空き家活用を目  
的に2名導入する。

問 地区の選定はどの  
ように決めていくのか。

商工観光課長 モデル  
地区として2地区を予  
定。選定については、  
正副区長懇談会で事業  
の説明をし、募集する。

子ども課長 保護者、  
地域との連携を踏まえ  
て子どもの居場所全体  
を視野に進めていくこ  
とを目的に集落支援員  
を導入する。

教 育



半田 裕 議員

問 自由に遊べる自然環境を

答 子ども達とともに考える

問 自由に活用できる  
自然環境や公園が少な  
い。今後のあやめ園の  
整備計画は。また、活  
用についてを地域と共  
に考えては。

生涯学習課長 信州や  
まほいくの事業として  
立ち木伐採と川への階  
段の手すり整備を行う。

教育長 まず、小中の  
児童生徒に投げかけ、  
どのような管理運営が  
望ましいのか子ども目  
線でも考えてもらおう。  
その上で村としての方  
向性を出していく。

財政問題

問 辺野古埋立ては自治蹂躪

答 村政への影響は不明確

問 国への意見要望の  
意志決定の過程は

総務課長 国への意見  
書の提出は全国的連合  
組織による意見書の提  
出による。課の意見を  
とりまとめた後、町村  
会に提出、町村会の総  
会で決定したものを国  
に提出という流れ。

という、地方自治を蹂  
躪する形で進んでいる。  
また軟弱地盤の埋め立  
てで、10年たっても完  
成するかわからないよ  
うな事業に国家予算が  
投入されている。中止  
を求めるべきではない  
か。

総務課長 国の予算に  
おける防衛医日の増額  
は国策であり、村政へ  
の影響は明確に把握で  
きないので、意思表示  
は考えていない。

防災問題



村田 俊広 議員

問 防災・減災への備えが重要

答 住宅の耐震化率は73%

問 被災者のご苦労に  
応えるために、防災・  
減災に向けての備えが  
重要。本村の住宅の耐  
震化率は。

建設水道課長 耐震化  
率は直近で73%。

問 住宅が堅牢ならば  
避難所の負担軽減につ  
ながる。耐震化の推進  
を広報していくことが  
必要では。

建設水道課長 納税通  
知書とあわせて、耐震  
改修お勧めのチラシを  
同封している。



佐宗 利江 議員

## 問 中学校前の横断歩道移設

### 答 塩カル、雪かきで対応

子ども課長 状況を見ながら出来る事はやる。

問 駐車場出入口から横断し、向かい側の歩道へ渡ってしまう。グリーンライン等安全性の確保が必要では。

子ども課長 既存の横断歩道を利用する。路肩の幅はないが、中学生と車にも気を付けてもらう。

問 冬場、中学校南側の駐車場からの道路の横断方法が曖昧で非常に危険だ。

教育長 来年度、祝日を四日間試験的に開館し、利用状況の調査をする。事前に十分周知をし、利用者の意見も伺いたい。図書館協議会では規模も小さく現状のままでもいいのではないかという意見も出ている。

## 学校安全

## 図書館

## 問 祭日の開館が必要では

### 答 現状では精いっぱい

問 諏訪圏の六市町村の中で祝日開館をしていないのは原村だけだ。以前からの要望に加え、先日行われた住民アンケートからも祝日の開館が求められているが村の考えは。

問 協議会では要望は理解しているが、必要ないということか。住民サービスの向上は自治体の責務ではないのか。

教育長 あまり休日に利用したことが無く実態がわからない。今の段階でやる事が出来るのはここまです。精いっぱいだと思ってる。協議会も含め見直さなければいけないところは見直していくことは大事だ。

## その後どうなった？

令和5年11月次年度予算編成にあたり、村政の課題である5項目について村長に提言を行いました。令和6年度予算に反映された内容を紹介합니다。

# 議会の提言が反映されました

### 子どもの学び・暮らしを支える環境整備

#### ● 小中学校の給食費の負担軽減

→ 予算364万円

(特別栽培米購入による給食費補助、小学校1食25円・中学校1食35円の補助)

### 村道・駐車場の安全確保

#### ● 村道上の木障切り

→ 予算240万円

(100万円増額 村道上の支障木伐採)

#### ● 庁舎駐車場の改善

→ 予算33万円

(改善に向けた庁舎駐車場用地測量・鑑定)

### 多様化するニーズに対応した子育て支援

#### ● 保育園の入所在園要件の見直し

→ 育休退園の廃止

(保護者が下の子を出産する際に育児休業をとると、上の子が退園をしなくてはいけなくなる状況、判断は各自治体に委ねられている)

#### ● 村外の病児保育を利用した際の利用料の補助

→ 予算10万円

(食費・シーツ代等を除いた施設利用料の総額)

### 議会事務局の体制整備

#### ● 事務局職員の増員

→ 1名増員

(2名の職員が、監査、選挙管理員会を兼務している現状の改善)

議会はこれからも住民の皆さんの声を聞き、村政に反映されるよう提言を行っていきます。

原中学校の総合的な学習の時間「原村学」の集大成として、3年生がよりよい村を目指した提案や質問を行う「中学生議会」が1月17日に議場で開かれました。生徒は「アウトドア」「移住」「平和」「PR」「ワイン」それぞれの講座で学んできた内容から代表者が提案や質問を行い、村議がこれに答える形で進行。コロナ禍で中止や代替行事にした年を経て、4年ぶりの開催となりました。



## 将来帰ってきたときに集まれる場所を

アウトドア講座 〈質問者〉百瀬 公裕 議員 松成 優太 議員

**問** アウトドアブームの昨今、私たちはキャンプ場に足を運んだり、自分たちで着火からたき火をしたり体験的な活動を行ってきた。いつか大人になって原村に帰ってきたときに、集まろうといえる場所が欲しいという願いをもったため提案させていただきたい。合わせて村内にそういった土地があるか、跡地利用できる施設があるか教えていただきたい。

**答** [半田 裕 中村 浩平]

「原この森」は小学校での環境学習や保育園での活動などすでに村が子どもたちの自然体験活動のために活用をしているので比較的容易に活用が可能と考える。村民の森の活用も考えられるが、こちらは単発の利用ではなく原村学として今後も継続して整備、活用をしていくということであれば交渉の余地はありそう。

村内にいくつか民間のキャンプ施設があり、中学生が一緒になって整備や活用をするのであれば相談に乗ってしてくれる施設もある。

## 原村のよさをイベントでアピールしたい

移住講座 〈質問者〉清水 芹菜 議員

**問** 原村に移住した人や保護者へのアンケートで「原村は交通の便が悪いことが課題だ」ということが分かったが、バスが増えなかったり駅が無かったりするのは人口が少ないからではないかと考えた。そこで、原村に移住する人を増やすために、調査やアンケートで分かった原村の良いところをアピールするイベントを開催することを提案したい。

**答** [芳澤 清人 宮坂 早苗]

「現在村では多くの場所で移住定住関係、日本で最も美しい村関係のPRを行い、原村の魅力を伝えている。これらイベントで中学生の企画を提案・参加していただくことは可能だろう。一緒に企画をつくり、多くの人に関心を持ってもらえたらいい。

村内には、原村をよく知る年配者や移住してこられた先輩、土地建物に詳しい方など「田舎暮らし案内人」が20名ほどいらっしゃる。この方々と中学生の皆さんが合同でイベントを開催するのも効果が期待できるのでは。

中学生議会開催

中学生も考える

## 原村から戦争反対や平和を発信してほしい

平和講座 〈質問者〉 澁澤 一路 議員 菊池 直弥 議員

**問** 中学では、朗読劇を中心に平和に関する学習を行ってきた。実際に広島や東京に出向いてみたが、現地に足を運ぶ必要性を強く感じた。中学生が広島で平和学習を行えるように補助をしてほしい。村からも、原村にある慰霊碑を整備したり、広く知らせたりしてほしい。そして、村としても、戦争反対や平和を願う取り組みを発信してほしい。

**答** [村田 俊広 百瀬 嘉徳]  
広島での平和学習は議会で提案しており、教育長は意義を感じながらも、人数や人選の課題、平和教育以外の体験学習の課題等、学校の実情を調べて必要性を判断すること。「非核平和宣言の村」看板がハツ手地区に設置されており、各地区に建っている忠魂碑を見て回るのも参考になると思う。原村戦没者追悼式が毎年開かれているが、戦後77年が経ち、参加する遺族も高齢化が目立って減少していると聞く。中学生が参加してみることを検討してもよいかもしれない。

## 観光客に便利な交通機関の整備を

PR 講座 〈質問者〉 伊藤 彩 議員

**問** 原村をPRするために、原村の飲食店を取材してきた中で、素敵なお店が多数ある一方、お店の情報が見つけにくいと感じた。SNSでの発信など、村としてのPR活動は、どのようなことを行っているのか教えていただきたい。また、実際にお店を巡ってみて、少し交通の不便さを感じたため、観光客にとっても利用しやすい交通機関の整備をお願いしたい。

**答** [平出 敏廣 小松 志穂]  
Instagramには観光案内と地域おこし協力隊のアカウントがある。令和4年に更新した観光ホームページでは村内の店舗情報などが確認できる。観光案内のInstagramはこのホームページにリンクしている。村内循環バス「セロリン号」は1月で終了になり、2月からはAIオンデマンド交通「のらぎあ」が運行開始になる。仮想バス停が増えることで、これまで行かれなかった場所にも足を運んでもらえる。ただし事前登録・予約が必要なので、観光客の方にも広く知ってもらう必要がある。

## ハヶ岳西麓ワインイベントを開催しては

ワイン講座 〈質問者〉 時田 源也 議員

**問** ハヶ岳西麓ワインバレーを多くの人に知ってもらうために、茅野市、富士見町と共催でワインイベントを開催してはどうか。私たちも原中ワインを多くの人に知ってもらい、応援してもらいたいのので、多くの人に知ってもらえる場ができればいいと思う。イベントが開催できたら、スタッフとして運営のお手伝いをしたい。

**答** [森山 岩光 佐宗 利江]  
ハヶ岳西麓ワインバレーが認定された際に試飲会が開催されたが、今後一般向けにもこのような機会があれば、村のワイン普及にとって大きな意義があり、働きかけていきたい。村だけではなく、民間の団体でもそうしたイベントを企画することは十分可能で、中学生も共に企画実行をしていけたらいいのではないかと考える。原中ワインのチラシ作り、香り比べをして感想を聞く、ワインで作ったお菓子や料理を提供し感想を聞くなど、中学生の皆さんの活躍も期待できる。

### 議長 の 感想



勝野 陽翔 議長

—中学生として私は村の色々な疑問を知ることができました。けれどなくなった訳ではないから、機会があればもっと聞きたいです。議長としては、学校とは違う場所ですごく重要な役を体験することができました。



加納 慶一郎 議長

中学生議会で僕は普段体験できない貴重な経験ができました。僕は議長として会の進行を行いました。周りは偉い人で、とても緊張しました。ですが、もう一生体験できないかもしれないのでとてもよかったです。

# き せ て か

議員が訪ねてお話を伺いました

## 制服も、村も、おしゃべりになっただらいいな。

**佐宗** 部活動の様子を聞かせてください。  
**菊池さん** 男子バスケットボール部は2年生が4人、1年生が10人くらいで活動しています。

**中野さん** 吹奏楽部は13人です。大会では大編成と小編成という区分けがあるのですが、小編成の中でもかなり小さな編成になります。

**松崎さん** 陸上部ももっと部員がほしいです。部員はそれぞれ何かの競技に取り組んでいます。リレーや駅伝競技には人数が足りなくて出られません。

**小松** クラブチームなど中学の部活以外で活動することについては、どう思いますか？

**松崎さん** 諏訪郡の人たちが集まって合同練習をする機会があるのですが、人数も多いし、練習メニューもきちんとできていてやりがいがあります。同じ種目に取り組む他校の人たちとも知り合い、仲間やライバルとして励みになります。  
**菊池さん** 人数が多い方がやりやすいです。

すし、良いと思います。部活の人数では交代枠が足りなかったりするので。  
**小松** 制服についてどんな風に感じていますか？

**菊池さん** ジャージで過ごしている時間が多いので、制服はない方が楽ですね。  
**中野さん** 吹奏楽の大会はみな制服で出ます。他校のステージでおしゃべりなデザイン

の制服は目に留まります。  
**佐宗** 大人になって外から見たとき、どんな村だったら帰ってきたいと思えますか？  
**中野さん** 今のままであってくれればいいと思います。上の方へ行けば自然が豊富で、道路も舗装されていなくて土に触れられる。生活圏と自然が融合した感じが好きです。

**菊池さん** 今の原村には施設が少ないと思うので、もっと飲食店などがあつたらいいと思います。  
**松崎さん** 自然を生かしながら、おしゃべりな村になってほしい。例えば軽井沢みたいになっただらいいですね。



小松 志穂 議員

佐宗 利江 議員



菊池 泰さん (2年)



松崎 望乃さん (2年)



中野 連太郎さん (2年)

## 編集後記

2024年、今年こそは災害のない平穏な年でありたいと願っていた矢先の能登半島地震。新年早々、大変な災害となってしまいました。亡くなられた方々のご冥福と、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。

原村も7年前、台風による倒木で長期間の停電、昨年6月の豪雨では下水道管の破損など被害が多発した。今後も災害の激甚化・頻発化が予測されている。また地震予兆では、「首都直下・南海トラフ大地震の発生も想定されている」との報道もよく耳にするが、どこかで「自分は大丈夫だろう」と思い込んで、危険を過小評価してしまう…。

災害は忘れたころにやってくる。これまで以上にしっかりと備える事の重要性を改めて感じる。

(森山記)

## 議会広報広聴常任委員会

委員長	宮坂 早苗
副委員長	佐宗 利江
委員	芳澤 清人
委員	森山 岩光
委員	小松 志穂

## 議会の傍聴にお出かけください

次の定例会は

# 5月31日(金)

開会予定です

- ・役場2階総務課前で受付後、傍聴席にお越しください。
- ・会期中は委員会の傍聴もできます。

[問い合わせ]

議会事務局 ☎0266-79-7951

## 議会だよりへのご意見をお寄せください

よりよい議会だよりづくりのため、  
皆様のご意見を聞かせてください。

こちらから▶

